

# 財務状況の全般的説明

## 1. 平成28年度の財務状況

高野山学園における平成28年度の財務状況において、ここ数年の本学の課題の一つである学生・生徒数の減少が関係し、学生生徒等納付金収入は前年度と比べ1,011万円減少している（当初予算より647万円増加）。

18歳以下人口が減少する中で学生・生徒の確保は困難な時代であり、改めて本学が置かれているポジションを再確認し、受験生のニーズに応える学園作りをおこない、昨年度と同様ではあるが費用対効果を考えた募集戦略を立て学生・生徒数の増加に努めていく必要がある。授業料前受金・入学金前受金ともに前年より増加していることから当年の取り組みには一定の効果があったものと考えられるので、さらなる検討と努力が求められる。

### (1) 資金収支計算書

#### ①資金収支計算書の概要

##### 資金収支計算書について

資金収支計算書は、当該年度の諸活動に関するすべての収支の内容、および支払資金の顛末を明示する計算書類である。

#### ②平成28年度の財務状況

##### ■寄付金収入とその処理

大学創立130周年記念事業寄付金および一休院山添亀法氏殻の特別寄付等により、寄付金収入が15,275万円増加した。前者は130周年記念事業の運営に充てられ、後者は奨学金のための特定預金を開設、次年度以降運用を行う。

### (2) 事業活動収支計算書

#### ①事業活動収支計算書の概要

##### ■事業活動収支計算書について

事業活動収支計算書は、当該会計年度における事業活動収入と事業活動支出を対比し、収支の均衡状態と内容を明確にする、企業会計における損益計算書に当たるものである。その意味では、単年度の収支（赤字/黒字）をうかがう上での指標となる計算書である。

#### ②平成28年度の財務状況

##### ■事業活動収支の動向

平成28年度決算では、前年度決算と比して事業活動収入は10,803万円の増加、一方

事業活動支出は 7,168 万円の減少となっている。収入の増加については、(1) - ②でも説明したように寄付金の増加が影響している。支出の減少については、役員・職員の退職にともなう退職給与引当金繰入額の減少に加え、管理経費の全体的な支出削減によるものである。組織としてより厳密に経費投入の見極めを行う体制が進んでいる一方で、今年度は補助金収入が学園全体でやや減少した。学生生徒数の増加を狙いつつも、学園全体として引続き補助金収入の増加に向けて改革に努める。

### (3) 活動区分資金収支計算書

#### ■活動区分資金収支計算書の概要

活動区分資金収支計算書は、企業会計でいえば損益計算書に当たる。資金収支計算書の決算額を三つの活動区分（教育活動／施設整備など活動／その他の活動）に分けて表しており、活動毎の資金の流れを明らかにするものである。

### (4) 貸借対照表

#### ①貸借対照表の概要

##### ■貸借対照表について

貸借対照表は、年度末の財政状態を、資産・負債・正味財産（基本金、繰越収支差額）で表す。貸借対照表では、当年度末と前年度末での資産等の変動を対比している。

#### ②平成 28 年度の財務状況

##### ■資産の減少

平成 28 年度末では、特定資産が 4,926 万円減少している。この減少は、高校拡充整備引当特定資産及び高校福祉保健引当特定資産の取崩の影響によるものである。この現金化により高等学校の資金を流動化、寮の改修に充当する。大学ではサテライトキャンパスの移動経費を經常運用資金で賄ったため、次年度以降同様に特定資産を取り崩し、流動資産の確保を図る必要がある。

##### ■純資産の減少

平成 28 年度末では基本金が全体として 2,056 万円減少している。この減少は、平成 27 年施行の学校法人会計基準の改正により、これまで取崩不要とされた第 4 号基本金（恒常的に保持すべき金額として算出された、1 か月分の運転資金）を当年度で実態に即して再算出・取崩を行うとされたため 8,270 万円の取崩を実行した影響による。（なお、固定資産の取得により第 1 号基本金は 6,204 万円繰り入れている）